

技術情報

石油コンビナート等における自衛防災組織の
技能コンテストの取り組みについて株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター
代表取締役 小松崎 勝美

平成30年度「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」が実施され、弊社が最優秀賞として、栄えある「総務大臣賞」を受賞させていただくことができました。

これも横浜市消防局をはじめ、鶴見消防署、神奈川消防署の方々からのご指導、当社株主である構成事業所各社のご協力があってこそこの賜物と深く感謝申し上げます。

今回の技能コンテストの取り組みについてご報告をする前に、当社について簡単にご案内をさせていただきます。

会社概要

当社は、1976年6月に施行された石油コンビナート等災害防止法（以下、石災法）に基づき特別防災区域として指定された京浜臨海地区のうち、鶴見川以西の横浜地域に事業所を有する会社の共同出資により1977年8月30日に設立されました。現在、JXTGエネルギー(株)、大東タンクターミナル(株)、日本埠頭倉庫(株)、横浜液化ガスターミナル(株)、保土谷化学(株)、鶴見倉庫(株)、内外輸送(株)、(株)築港、日産自動車(株)、(株)J-オイルミルズ、昭和電工(株)、三菱ケミカル(株)、東京電力フュエル&パワー(株)（順不同）、全13事業所の出資をいただいています。

当防災センターは、石災法の定める所に従い、1978年7月と1979年7月の二段階に分けて消防自動車の防災資機材等および防災活動に従事する要員を配備し、常時その教育、訓練に努め、構成事業所の有事の際は公設消防機関ならびに各事業所の自衛防災組織と協力し、その災害の発生または拡大の防止に努めることを設立の目的とした共同防災組織であります。また平成30年4月より、(株)KSP（本社：横浜市、総合警備業 <http://www.ksp-kokusai.co.jp/>）による運営形態となっています。



KSP大黒神奈川共同防災センターの拠点



(社章の意図)

- 1) 金色の2個の輪は、多数の会社が輪になって（共同して）設立した会社であることを表しています。
- 2) 赤色は火、水色は水を示し、火を水で囲んでいることを表しています。
- 3) 赤色と水色の組み合わせは、消防のシンボルカラー（防災カラー）です。
- 4) 輪に記された文字「防」は、防災を表しています。



平成30年度技能コンテストの参加メンバー（精鋭7名）

「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」は、石油コンビナート地域にある特定事業所の自衛防災組織の技能及び士気を向上させ、その地域の防災力強化を目的として、総務省消防庁が平成26年度から技能コンテストを行っています。

平成30年度は、全国から42組織が参加しました。

※一の石油コンビナート等特別防災区域において、二以上の事業所が共同して自衛防災組織の業務の一部を行うために設けられているのが、共同防災組織です。

技能コンテスト概要

1、訓練の想定

特定事業所内の石油タンクで火災が発生したことを想定し、自衛防災組織等の保有する消防車両を活用した消火活動競技です。

2、出場資格

全国の石油コンビナート等特別防災区域に設置されている自衛防災組織のうち、「大型化学高所放水車及び泡原液搬送車」又は「高所放水車及び化学消防車」を保有する自衛防災組織等を対象に、出場する条件として管轄する消防本部からの推薦が必要になる。

3、予選の実施

管轄消防本部が推薦する自衛防災組織等の総数が20組織を超えた場合には、予選が実施され、本選に出場する20の自衛防災組織等が選抜される。

4、審査

予選は、推薦消防本部が撮影した競技映像によるビデオ審査とし、本選は消防庁から審査長1名、審査補助者1名の計2名が会場事業所に出向き、撮影した競技映像を審査する。

5、横浜市出場隊

株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター

6、競技要領

中隊長（1名）、小隊長（2名）、機関員（2名）、隊員（2名）の計7名による大型化学高所放水車及び泡原液搬送車を使用した競技

7、訓練、表彰等

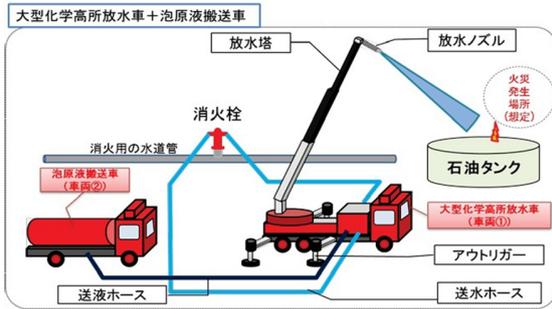
- ・H30. 6. 11 訓練開始
- ・H30.10. 30 総務省消防庁職員による現地・ビデオによる本選審査
- ・H30.12. 14 総務大臣賞表彰式（最優秀賞）

8、横浜市参加隊の過去の成績

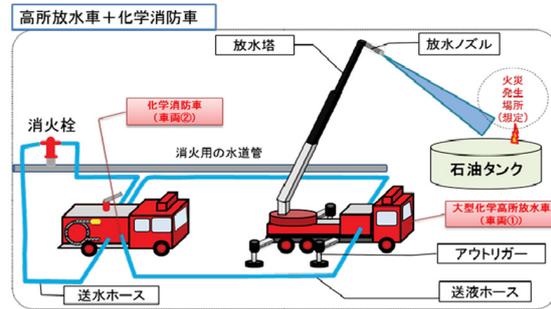
- ・H29年（出場43組織）安善町共同防災組織 2位優秀賞（総務大臣賞）
- ・H27年（出場35組織）JX日鉱日石エネルギー(株)根岸製油所 奨励賞（消防庁長官賞）
- ・H26年（出場33組織）大黒神奈川共同防災センター 優秀賞（総務大臣賞）

「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」の競技内容

<放水体形 パターンA>



<放水体形 パターンB>



(1) 車両を固定

車両①のアウトリガー（車両指示装置）を設定し、車両を固定

(2) 放水塔の設定

車両①の放水塔を伸ばし、屋外貯蔵タンクの上から泡を放出できる高さに設定

(3) 泡消火薬剤の送液
または送水

パターンA、パターンBの送水側車両②の種別に応じ、泡消火薬剤、もしくは消火用水を送水

(4) 放水

車両①で、泡消火薬剤と水を混合し、発泡された泡を放水ノズルから放出
※競技では泡消火薬剤を送液せず、水のみを送水・放水しています。





技能コンテスト参加にあたっての当社の課題

- ① 訓練場所の確保
- ② 訓練体制の確立
- ③ 訓練時間の確保
- ④ 熱中症等の体調管理

課題克服のための取り組み

- ① 構成事業所各社において、訓練場所の提供、放水訓練時の水の使用、訓練時の安全確保等、全面的なサポートを頂きました。このご協力なくしては、訓練もままならず、やはり技能コンテスト参加目的をご理解を頂けたことが何よりでした。
- ② 過去の横浜市参加隊のビデオを研究するとともに、横浜市消防局の皆さまから叱咤激励を受けながら、弊社隊員の技能向上を図るべく日々の訓練を重ねることができました。
- ③ 限られた予算の中ではありましたが、試行錯誤を経て、訓練時間を確保するために勤務シフト全体を見直し、全社員協力のもと、技能コンテスト出場隊員中心の勤務シフトを組むことにより、訓練時間の確保が出来ました。
- ④ 予選も含め夏場の訓練となるため、各隊員の体調管理には特に注意を払って参りました。

技能コンテストに参加して

今回の技能コンテストの参加を経験して、隊員からの主な意見は以下の通りです。

- コンテストの訓練から得るものは多く、礼式、指揮命令系統の確立に役立った。
- 訓練の指導をいただきながら地元消防署の方々との交流ができ、連携強化が図ることができた。
- 安全確実な資機材及び車両の取り扱いや操作を学んだ。
- 訓練を通じて自分の技術習得に励むことができた。
- コンテスト参加メンバー間で技能を競って磨く意識が芽生えた。
- 基本動作、安全管理の重要性について改めて気付かされた。
- 訓練を通じて、創意工夫が出来たことが良かった。
- 構成事業所の防災力強化に貢献していきたい。